

平成 25 年 8 月 5 日

大山町議会議長 野口俊明 殿

大山町議会議員 米本隆記

第 78 回町村議会広報研修会報告書

日 時 平成 25 年 7 月 30 日 13 時から 31 日 12 時まで
場 所 シェーンバツハ・サボー 住所 東京都千代田区

研修項目

1. わかりやすく、ふさわしい日本語（山田貞雄氏）
2. 広報誌面デザインの基礎知識（長澤忠徳氏）
3. 議会だよりの撮影方法と表現方法（川西正幸氏）
4. 議会広報クリニック「グラフィックデザイン」（長岡光弘氏）

研修内容

1. わかりやすく、ふさわしい日本語

雑誌に求められるのは素早く内容が把握できること。それには、見出しを読み内容がある程度わかること。文章では句読点で区切るものは 2 行にできないか。または、やたら区切ることや長々したものになっていないか。

インターネットは、必要な情報を利用者が自由に得られるが、広報誌は情報が読者に一方的に流される。

読者にとっての距離間とは、

1)紙面上の活字と読者の目との距離は、活字級数左書き見出し、リードに対する縦書き見出し、記事の小見出し、用語への脚注、イラスト・グラフなどである。

2)言語表現上のライターと読者の距離は、親しさ・なれなれしさ・語り口が基本になり編集後記や随想・放言などが当てはまり、用語説明・外来語使用や敬意表現などで表す。

また、見出しでの注意は、体言止めや漢語表現は注意が必要。

2.広報誌面デザインの基礎知識

1)可読性のある文字組みと表現

写真の中に入れた文字・・・白抜きを使うと文字がはっきりと読み取れる。

表組み・グラフ・・・列の色分けや項目の引き出し線の活用で誘導する。

文字組み・・・ページ全体の文字は行間を開ける。さらに、2段組みにすることで

よりいつそう読みやすくなる。同じ文でも文字体によって違う感覚が出てくる。

2)視線の誘導を図ったレイアウト

強弱のある紙面表現か・・・視線はページの右上から左下に移る。見出し、小見出しで注目させる。

複雑な表現いなくなっているか・・・複雑より単純な紙面にする。上下左右ともに列を揃えてすっきりとさせる。

文字の役割を活用しているか・・・視線の流れに、見出し・リード・文写真・本文が配置されているか。また、小見出しの付け方は適切に処理されているか。

3)飽きのこない表現

変化に富んだ紙面・・・同じ表現、イメージでは同じ内容に見られてしまう。記事毎に

考えて。

全ての紙面が同じになってないか・・・同じレイアウトフォーマットでも、表題・リード文を横書きにし、上段・中段に入れたら見た目の変化付けになる。

3. 議会だよりの撮影方法と表現方法

議会だよりの撮影には、住民を入れて臨場感を表現する。表紙は行事を楽しむ住民の活気を表現する。紙面では、議案・質疑・一般質問などはテーマや情報をわかりやすく伝える写真を考える。

町民の表情からテーマを表現する、それは誰の為にするのか。テーマを主にすると人物はわき役になるが、人物の表情から生活感や活気を表現し、テーマの意味合いを深めてくれる。

通りがかりの人物を入れる時は、テーマにあった年齢・性別を考える。誰でも良い場合は、若い人や家族連れを使うとそこの活性化が表現できる。

4. 議会広報クリニック「グラフィックデザイン」

9つの議会広報誌の感想を講師から聞いた。可読性・写真や色遣いどの広報誌も問題はなかった。コンテンツ・定例会の報告・議員の活動報告は指摘なく、住民登場は増加していて良い方向になっていた。

個々の紙面の説明は省略する。

まとめ

今回の広報研修は、文章・デザイン・写真撮影と各講座とも重要なポイントに的を絞って解説してもらった。文章の表現方法はちょっとした工夫でまるっきり違った感じを表すことができる。ページが目飛び込んでくる配置・見出しは読者をくぎ付けにする。特に今まであまり意識していなかった撮影方法・写真の使い方は大変参考になった。

今後作成する広報誌に生かしていく。